



障がい者支援グループ

「いきいきビーンズ」スタッフ 野元 千里

障がい者支援グループ「いきいきビーンズ」は、平成16年8月に蒲郡市の3つの障がい者家族団体が中心となって設立し、障がいの枠を超えた相互理解と障がい者の自立、そして障がい者の福祉向上を目的に活動しています。ここでは、具体的な活動の代表例として、年に1回行っている「映画会」についてご紹介したいと思います。

1 映画のバリアフリー

視覚や聴覚に障がいのある方にとって、映画はまだまだ身近なものではありません。そこで、視覚障がいの方には「シーンボ

イスガイド(※1)、「聴覚障がいの方には、「磁気誘導グループ(※2)」と字幕スローパーを用意し、障がいのある方にも映画を楽しんでもらえるようにしています。

2 障がい者とのふれあい

障がい者実践教育の場として、中学生にボランティアで受付などをお手伝いしてもらっています。今年の映画会の際にも募集をしましたが、希望者が多く、お断りをするほどの申し込みをいただきました。

3 映画の字幕製作

今年の映画会では、映画の字幕スローパーを、要約筆記の方やスタッフ蒲郡の方を中心に、「いきいきビーンズ」の関係者らとともに手作業で製作しました。これには大変な労力がかかりました。

4 映画の収益金

映画の開催で得た収益金は、市の福祉センターへスローパーを建設するために寄付したり、障がい者の福祉向上などのために寄付したりしています。

これからも、さまざまな活動を通して、障がい者が真に自立できるよう、「いきいき」と活動を続けていきたいと思っています。

※1 映画のシーンをイヤホンで聞く方法

※2 補聴器に電波を発生し、聞こえやすくする方法

水族館

学芸員 小林龍二

竹島水族館 ☎68・2059

竹島水族館の水槽はよく「きれいですね」と言われます。ガイドブックなどにも「手入れが行き届いたきれいな水槽の水族館」と紹介されます。また、他の水族館職員が来た時も展示を見て、まず「水槽がきれいですね」と言ってくれます。

水槽掃除

さて、そんなきれいな竹島水族館の水槽ですが、私は水族館に勤める前まで「水族館であれば特殊な機械や装置が設置してあって、水槽は汚くならないだろう」と、勝手に思い込んでいました。

しかし、いざ水族館に勤めてみると水槽掃除の連続で、特に小さな水槽ばかりの竹島水族館は、巨大水槽をもつ水



族館に比べ汚れやすくなっていくため、毎日のように水槽をスポンジでこすっています。汚れの大部分はコケです。魚たちにとってはコケまみれになろうと、水槽が汚れていようと、水と水温そしてエサがあれば問題はないのですが、展示して見てもらう側の水族館としては、掃除は絶対条件です。